

## 館園実習体験記

2018年度人文系博物館実習では、25名の実習生が5日間以上の期間、館園実習に臨みました。実習先は岡山県内外の合計10箇所の博物館・美術館です。今回は複数名が参加した館を対象に、実習後の学生の感想を掲載します。

### 岡山県立博物館

今回の館園実習を通して学んだことの中で特に重要だと感じているのは、「文化財を扱う」ことの責任の重さです。文化財とは本来人類の宝であり、また個人からの寄贈・寄託品である場合にはその人達の宝です。そしてその全てが替わりの無い唯一無二の存在でもあります。恥ずかしながら専門の勉強であまりにも日常的に文化財に触れるなかでそれに慣れてしまい、文化財の重要性をかえって忘れがちだったのかもしれない。学芸員として働く方々のその文化財や人に対する誠実さ真剣さに、学芸員という仕事に求められるものの本質を見たように思います。

### 岡山県立美術館

「空間展示について考える」の講義で観覧者の導線を意識した空間設定や展示の間隔、背景の色など、実際の展示室の中で実践的な展示方法をお聞きできたのが印象深く残っています。美術館といえばホワイトキューブのように真っ白い壁のイメージが強くありました。しかし、あえて背景色を一部に追加して空間的な独立性を与えることによってテーマ性を強調するなど、それまで観覧している立場では分からなかった新たな視点で展示について考察することができるようになりました。学芸員の教育普及の役割において視覚障害者向けの音声解説の作成も印象深く残っています。ユニバーサルミュージアムとは何だろうかと考えさせられる内容でした。音声解説の原稿を作成する中でなにを伝えるか、どのような表現方法を用いるか、など、かなりの想像力を必要とする体験でした。立場や環境の違う方への理解、また、全ての人にとっての博物館の役割について考える大変良い体験となりました。

### 岡山市立オリエント美術館

館園実習では、主にワークショップの準備や、特別展のお知らせの送付作業の補佐をさせていただきました。そこで、博物館の運営には学芸員だけではなく、事務員

#### 館園実習館内訳

岡山県立博物館 5名、岡山県立美術館 3名、岡山市立オリエント美術館 3名、岡山シティミュージアム 5名、林原美術館 2名、吉備路文学館 3名、津山郷土博物館 1名、奈義町現代美術館 1名、兵庫県立美術館 1名、姫路文学館 1名

やボランティアなど多くの方が携わっていることを学びました。また、私たちが普段目にする展示が多大な労力を費やされて完成しているのか、利用者への配慮がどれほどなされているのかを学ぶことができました。

### 岡山シティミュージアム

館園実習では、展示変えのためにケースの移動や展示品の入れ替え、金具の取り付け、そしてそれ以前の企画話し合いや図面作成などを併せて、膨大な手間・時間・思いが一つの企画展に込められていることを学びました。学芸員の方は資料と人の安全を守るために、細部に配慮されていることを実感しました。その分一つの作品を作るような達成感がありました。学芸員の仕事は多岐にわたる地道な作業が多いと再認識しました。また、実際の展示作業の中では、一つ一つの作業に留意することで事故や怪我が起きにくい環境を作られていました。

### 林原美術館

私が実習をさせていただいた美術館では、実際の展示品を扱う作業に多く関わらせていただくことができました。扱う資料の中には非常に貴重なものも含まれており、実習中は緊張する場面の連続でした。資料の扱い方は勿論、資料を見る際のポイントなども作業の合間に多々教えていただきました。多くの貴重な体験を通して、博物館へ行った際の展示の見方も変わったように思います。

### 吉備路文学館

吉備路文学館で5日間実習をさせていただいた中で最も印象深かった事は、自主展示の作成でした。文学館内収蔵の品のみを用いて、吉備路ゆかりの文学者に関する展示を作成せよというもので、資料台帳をお借りしながら四苦八苦しつつ考えました。そこにある物だけでひとつの物語を作るといえるのは、想像以上に難しく、また普段から自館の資料と向き合い、知る事が肝要であるという学芸員の心構えを学ばせていただく事ができました。

# 12 March. 2019 学芸員課程 Newsletter

Newsletter from Course  
for Prospective Museum  
Workers, Faculty of Letters,  
Okayama University

編集・発行: 岡山大学文学部学芸員課程 (編集 光本 順)  
発行日: 2019年3月29日  
文学部学芸員課程 Web Site  
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/pmww>

## contents

特集  
第6回文学部学芸員課程企画展  
光本 順 ..... 1  
博物館実習生による企画展報告  
鈴木恒志・木下莉沙・黒木恵那  
多田絢音・小野田澤 ..... 2・3  
館園実習体験記 ..... 4

## 特集

# 第六回 文学部学芸員課程企画展

2018年12月6日(木)~12月18日(火)にかけて、恒例の第6回文学部学芸員課程企画展「めくるめく 紙の表情 (かお)」を開催しました。これは2018年度人文系博物館実習の一環で実施したものです。会場は4年連続で岡山大学附属図書館中央図書館2階サルトフロresta内のクスノキエリアです。展示にあたりお世話になった図書館の皆様へ感謝申し上げます。

実習生は、「紙にかかわるテーマで展示を考案する」という方向性を最初に決めた後、まず各自で素案を作成しました。その後、館園実習先を基礎に5つのグループに分かれて班ごとに一つの展示案を作成しました。各班のプレゼンテーションとディスカッションの結果、「文庫のせなか」展と「つつむ・おくる」展を2台の展示ケースで実施することとなりました。前者は、吉備路文学館、姫路文学館、津山郷土博物館、後者は岡山県立美術館、奈義町現代美術館、兵庫県立美術館で館園実習を行った学生らによるものです。館園実習先は、学生の専門分野を

もとに志願しますので、文学・歴史系と芸術系とで展示の方法にも違いが認められました。また、図書館スペースをお借りした展示という性格上、図書館利用のついでにご覧いただく場合も多くあります。そのためか、アンケートを記入いただく機会がこれまで少なかったのですが、今回はアンケート方法についても良いアイデアがありました。実習生全体で各種作業を分担しつつ、全体で活発な議論がなされたことが印象的な展示実践となりました。その熱意は来館者の方に伝わったでしょうか。展示内容に関しては、取材担当班が記録し、本ニュースター2・3頁の誌面作りに参加しています。

また、本号では2018年度館園実習の体験記の一部を掲載しています。多くの機関・諸氏に大変なご支援・ご協力をいただいて実施する同実習ですが、すべての実習生にとってかけがえのない経験となっています。関連する皆様に厚く御礼申し上げます。

(文学部准教授 光本 順)



完成した展示

# 博物館実習生による企画展報告

特集

## 展示設営の様子



「文庫のせなか」展では、それぞれの背表紙が見えるようにしながら本を傷つけないことを考慮して、パネルに釘を刺し、本を挟むように固定する方法をとりました。また、「つつむ・おくる」展では包装紙・紙袋の模様が見やすい角度、間隔を意識して配置するほか、紙袋の内側に見所があるものについては、実際にものを入れて膨らませることで見やすくしました。

これらのほかに、壁面パネルの設置の際には複数人でズレを確認することに加え、メジャーで高さの計測も行い正確な位置調整を心掛けました。

(文学部 哲学芸術学専修コース 鈴木恒志)

## 新しい視点で背表紙に着目!

一つ目の企画展示の「文庫のせなか」は、普段あまり目を向けられない文庫本の背表紙に注目した展示です。出版社ごとに個性ある様々な意趣が込められていました。本を数冊出版社ごとに背表紙が見えるように立てて設置した他、ケースの奥にはカラフルな文庫本を色順に並べ明るい展示を演出しました。また、キャプションは背表紙の情報を取り出してロゴマークや配色などに関する解説を付けました。その他にも、資料を傷つけないように立てるため画鋏を用いるなどの工夫を施しました。

この展示で、文庫本の魅力や新しい視点を発見することができたでしょう。

(文学部 地理学・社会学・文化人類学・社会文化学分野 木下莉沙)



## 百貨店の華やかさを表現!



企画展示の二つ目は「つつむ・おくる」です。日本の百貨店で使用されている包装紙と紙袋を展示しました。包装紙と紙袋を扱う上で、デザインに意外な意味があることが分かりました。

また展示を実践する際に工夫したこともいくつかあります。日本で初めてデザインされた三越の包装紙を中央に置き、注目してもらえようにしました。実際に展示してみるのと自分たちとの想像とで隔たりがある部分もありましたが、現場で調整することで乗り越え良い経験になりました。看板や解説パネルは目に留まるようなデザインを心掛けました。全体として百貨店の華やかさを表せていたら幸いです。

(文学部 歴史学・考古学分野 黒木恵那)

## ワークショップ

展示イベントとして「わたしのおすすめ本」というコーナーを設けました。このコーナーでは、来場された方に、おすすめの本のタイトル、作者名を付箋に書いて、パネルに貼って頂きました。一番人気のジャンルは推理小説・ホラー、次にSF・ファンタジーのようです。皆様のおかげで素敵な本棚が出来上がりました。

参加して下さいました皆様、ありがとうございました。

(文学部 芸術学・美術史分野 多田絢音)



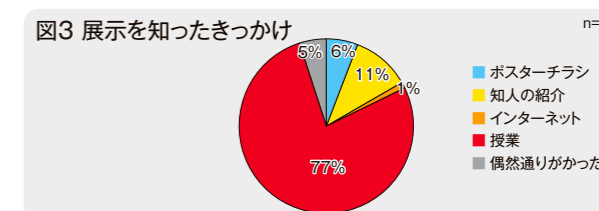
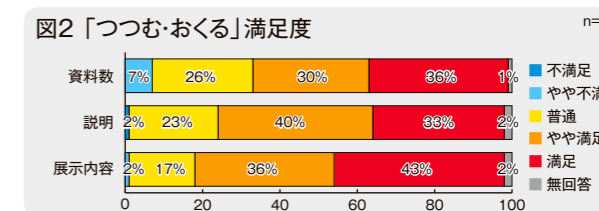
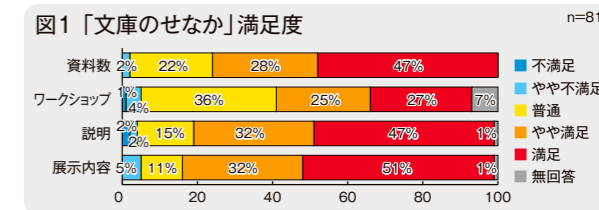
## アンケート結果・分析

来場者の特徴や展示の評価を知り今後の展示活動に活かすため、来場者の方にアンケートにご協力頂き、81人の方から回答を得られました。そのうち65人が「博物館展示論」受講者でしたが、例年より多く受講者以外の方に回答して頂くことができました。

各展示における資料数・説明・展示内容について満足していただけたかどうか調査しました。結果、特に展示内容について「やや満足」「満足」を合わせて高評価と捉えると、高評価の割合がどちらも80%を超えており、非常に高いことが分かります(図1、図2)。各展示の工夫に効果があったことが伺えます。

一方、展示を知ったきっかけは77%が授業という結果になりました(図3参照)。このことから、より多くの受講者以外の方に足を運んで頂くためには、ポスターやチラシ、インターネットを通じた広報活動をさらに積極的に行うなど、見直しの余地があると考えられます。

アンケートにご協力いただいた皆様、ありがとうございました。(文学部 歴史学・考古学分野 小野田滯)



## アンケート結果 回答者の声!

着眼点良かった!  
文章表現が上手い!

歴史を  
取り扱って  
ほしかった……

アンケート用紙が  
ラブレターになってるの  
いいね!

文章やアンケートの  
不備が残念……

など